

第 113 回古民家歴史部会歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 8 回」

平成 28 年 12 月 7 日(水)

「神奈川宿(2)」

*集合：(JR又は地下鉄)横浜駅西口・横浜高島屋正面玄関前 9 時 50 分厳守同時出発

(1)行 程：下記探訪先に同じ

(2)食事場所：自由行動

(3)探訪 先：「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。

横浜高島屋前(スタート)

- ① 大網金毘羅神社と台の一里塚跡：この神社は元飯綱社と言われ、境内後方の山上にあったが、琴平社と合祀され、現在地に移った。眼下に広がる神奈川湊(現横浜港)に入りする船乗りから崇められ、大天狗の伝説でも知られる。神社の鳥居の横あたりに日本橋から 7 つ目の「台の一里塚跡」がある。
- ② 高島山公園：かつて、袖ヶ浦(現在の高島町)の埋め立てを指揮した高島嘉右衛門に由来して名付けられ、横浜から桜木町一帯の海の埋め立てを記念して「望欣台の碑」がある。
- ③ 台町の茶屋：現在の台町周辺は、かつて、神奈川湊を見下ろす景勝の地で、現在の料亭・田中屋あたりに、沢山の腰掛茶屋が並んでいた。幕末の志士・坂本龍馬の妻おりょうは、龍馬亡き後、田中屋で住み込み仲居として勤めていて、龍馬からおりょう宛てた恋文が、今も田中屋に残っているという。(田中屋のパンフから)
- ④ 神奈川台の関門跡(袖ヶ浦見晴らし所)：開港後、外国人が相次いで殺傷され、各国領事が幕府を非難、そこで主要地点に関門や番所を設け、警備体制を強化した。この時、神奈川宿の東西にも関門が作られ、その一つが西側のこの関門である。
- ⑤ 上台橋：かつてこの辺りは潮騒の聞こえる海辺の道で、この地に橋ができたのは、昭和 5 年(1,930)。開発が進み、切通しの道路ができると共に、その上に橋がかけられた。
- ⑥ 沢渡中央公園(トイレ休憩)：この公園に公衆トイレがあるので、トイレ休憩。
この公園の中には、天然理心流の流祖・近藤内蔵助(新選組局長・近藤勇は四代目に当たる)の墓がある。
- ⑦ 勸行寺と軽井沢公園：勸行寺(かんぎょうじ)は法華宗の寺。寺の境内が軽井沢公園になっている。

(ウラへ)

⑧浅間神社：神社のある浅間町の昔は、神奈川と保土谷の間の宿・旧芝生村(しぼうむら)。
浅間神社は、この村の鎮守として、既に900年の歴史を刻む神社である。
富士山頂の浅間神社を本宮とする。

⑨横浜道岐路・横浜道：横浜道開通前、東海道へは、保土谷から井土ヶ谷、蒔田を通るか、神奈川から船便しかなかった。

安政5年(1858)日米修好通商条約調印によって、開国に踏み切った幕府は、翌年6月、神奈川開港を決め、東海道筋の芝生村(前記)から横浜に至る「横浜道」を開いた。記録によれば、道幅3間(約6m)、工期3か月の突貫工事だったという。

——(JR又は地下鉄)横浜駅へ…(解散)

東海道歴史探訪8

川崎宿 2

2016.12.7



歩行工程 約7km

